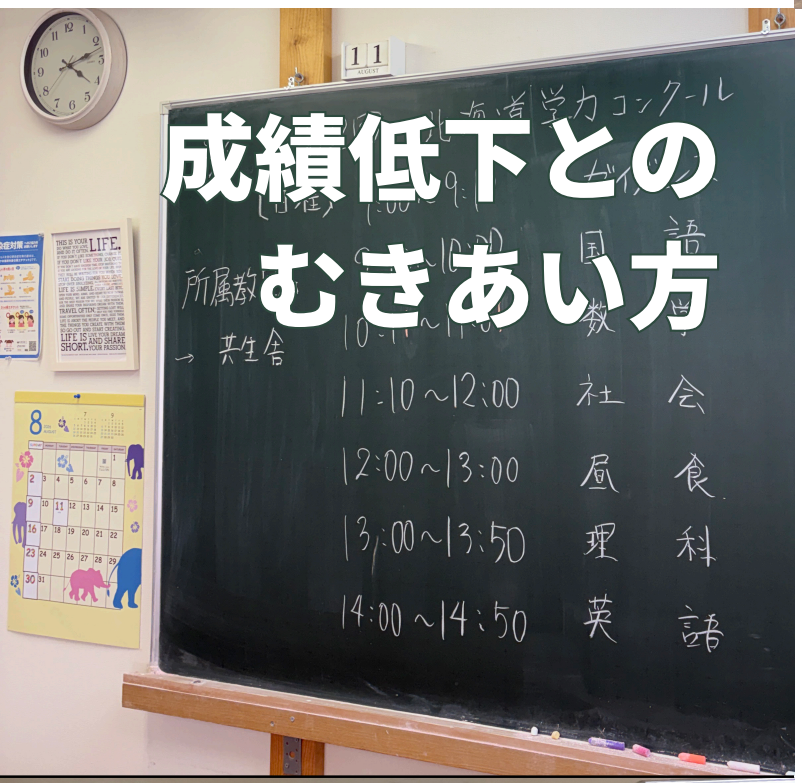
Ars Longa, Vita Brevis

共生舎　教室だより　2026 年秋冬号







まもなく、冬休みが訪れようとしています。

春から夏にかけて伸びた成績も、この秋で、低迷してしまった、ということもありませんでしょうか。

当教室でも、学力テストで伸びを見せた生徒もいれば、思うようには伸びなかった生徒もいます。テストの種類や出題する学校の先生によっては、基本問題で落としたらいもづる式に失点する問題形式も見受けられました。

勉強不足は否めない…という話になるかと思うので、ここで、「勉強不足」について考えてみたいと思います。

たしかに、テスト問題を見て自信を失いかけることは、「自信がつくほど勉強ができずにいた」ということにはなります。

しかし、多くの場合は、「量」ではなく「質」が問題となります。

そしてその質を上げることの１つには、「メンタル面を整えること」も重要なことです。

そこには、「問題を見ても動じなくなるには」という要素や、「問題文から聞かれていることを正しくとらえられるか」という要素も関係してきます。

量だけをこなしても伸びないのは、こうした「質」を補うための行動が必要だったといえるでしょう。

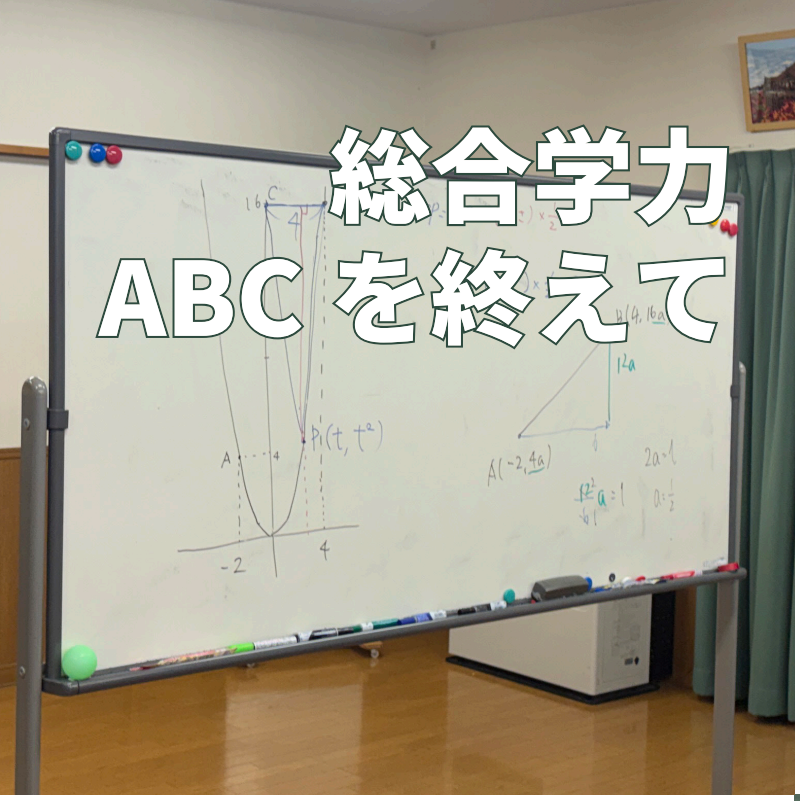
特に小学高学年～高校初期は、思考力や判断力が成長しきらないうちから、自我を持ち始める時期です。「自分がこう勉強したい」ということと「この方が効率がよい」という指導と、両方を並べて折り合いをつけるということも難しい年代です。

また、目標未達などの指摘が、自分への人格否定だと思う可能性もある年代です。

こうしたことも踏まえ、教え諭すべきことは教え諭すものの、子どもたちの意思と折り合いをつけていくこと。これを、われわれ大人が支えていくことも、「質」の向上につながり、子どもが自信を取り戻し、安定した気持ちで学習に臨めるためのカギになるでしょう。

新規生徒募集中！

体験・見学お申込みはこちら→



総合学力ABCを終えて

中３生秋の最大の山場で、入試を占う重要な学力テストである、総合 ABC 学力試験が先日終わりました。塾生さんも少しずつ試験の返却を受けているところです。

すでに入試過去問を目にした塾生さんもいますが、入試本番と総合 ABC とでは、また出題形式が変わってきます。その違いの中で、最も重要なことは、

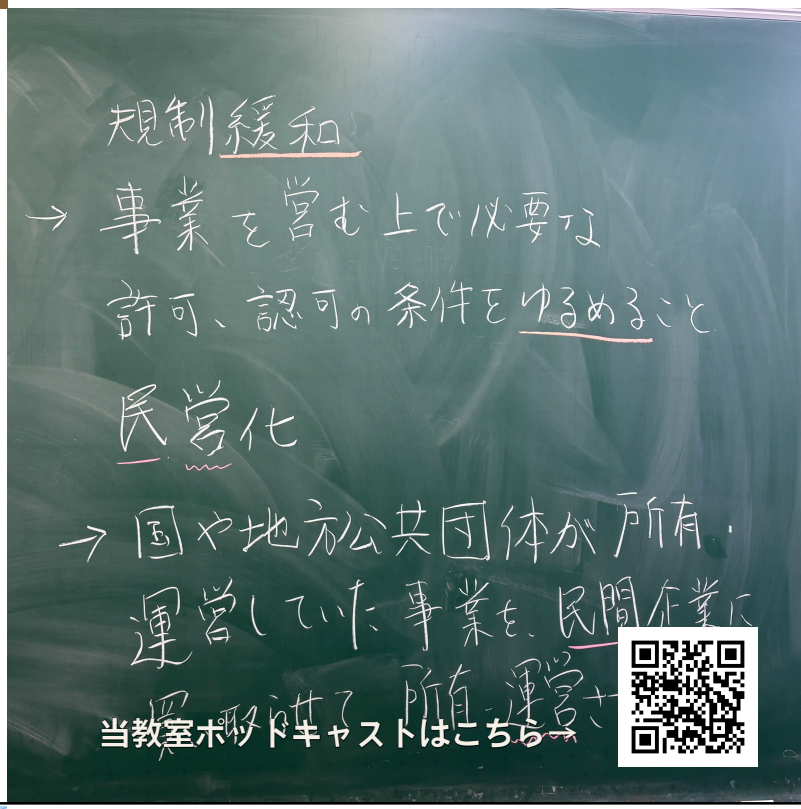
【入試では、問題文の意図を読み取る必要性が高くなる】ということです。

中学校の期末試験でも、それを意識したものなのか、ただ計算やワークのＡ問題だけできていればそれなりに得点できる試験ではないものが増えてきました。また、問題文に隠された条件をあぶり出す必要のあるものも出題されるなど、受験生であるかに関係なく、読解力・思考力を問う問題も多く出題されています。

ワークの問題だけ解けていればどうにかなる、というものではなく、基本問題を取りこぼしたとたん、一気に失点してしまうというもので、それに涙を呑んだ生徒さんも、今回の期末試験では散見されています。

１つ目の記事でも書いたように、落ち着いた気持ちで学習に臨めるようになることは、ますます重要性が高くなります。そして、その落ち着いた気持ちを土台として、問題文に早合点することなく、「これということは、何を問われているのか？」という一歩踏み込んだ解答を考えるような学習が求められています。

３年生には、ここから入試過去問演習を本格化させていきたいと思います。日ごろのワーク等の学習も大事ですが、入試問題にも慣れて、当日なるべく平常心で受験してほしいと思います。入試過去問はこちらで用意しますが、「解き方」問題集をお持ちの方はそちらも活用してほしいと思います。





編集後記

７月から仰せつかっている高校非常勤講師も、２回の定期試験シーズンを終えました。小中高大（＋専門）のそれぞれのフィールドでひととおり教えている身として、大切だと考えていることは、「英語学習の基礎」と「学習への先入観をなくすこと」の２点です。

「英語学習の基礎」、これはやはり手で書いたり耳で聞いたり、様々な感覚での情報を駆使しながら、最低限の語法（３単現、過去形、疑問文など）は高校でも忘れずにしておきたいということです。もちろん、言語ですので、得意不得意はありますが、知ろうとすること、忘れずにいようとすることの意思だけでかなり変わります。

「学習への先入観」、これは学習を苦行だけで終わらせず、「わかる」「できる」の喜びを分かち合い、活かすことです。特にこの先入観を減らし、落ち着いて試験に挑めるようにということが、後期の当教室の目標のひとつです。いっしょに、その道を探究していきましょう！！